

わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
April 2024 vol.457

2024 春号

特集

暮らしと経済を
支える大動脈
高速道路の
事始めと未来

達人ノ音プロゴルファー

吉本ここね

ロジステード陸上部選手たちの
ON&OFF

細谷翔馬





SA(サービスエリア)で休憩するトラック

Contents

特集

04 暮らしと経済を支える大動脈 高速道路の事始めと未来

SDGsエコレシビ

10 簡単ミルクフラン

達人ノ音

11 プロゴルファー 吉本 ここね

ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF

14 細谷 翔馬

18 Topics

19 編集後記

表紙

高速道路と万博記念公園(大阪府吹田市)

お問い合わせや感想はこちらまで
わだち編集事務局:wadachi@logisteed.com

*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。
*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので
何卒ご了承ください。

ロジスティード広報誌
わだち 2024春号
2024年4月1日発行

編集発行人 金田 陽子
発行所 ロジスティード株式会社
〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2
Tel.03-6263-2803
印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ



春の日に人生という 「道」を想う

春はスタートの時季。新しい出会いもあれば、仲の良い友人や先輩との別れもあり、うきうきしたりちよっぴり寂しかったり……悲喜こももです。それでも陽光降り注ぎ、若葉芽吹くこの時季は長い人生に活力を与え、リフレッシュやアクセントをもたらしてくれるような気がします。

人生はよく「道」にたとえられます。

近代木彫の礎を築き「老猿」の作者である高村光雲を父に持ち、自らも彫刻家で「智恵子抄」を書いた詩人としても有名な高村光太郎の詩「道程」。

発表された当初は100行以上の詩でした。それが数カ月後には、わずか9行の詩となりました。それが「僕の前に道はない／僕の後ろに道は出来る」で始まり、「この遠い道程のため／この遠い道程のため」道程」より引用)で終わる誰もが一度は耳にしたことがあるであろう有名な詩です。この数行のみとなった詩に、光太郎のどんな思いを感じてしまうのか？

「人生」を「道」という言葉に託した表現もたくさんありますね。

私たちが日常的に使う——例えば「道がひらける」「茨の道」といった言葉も「道」の部分そのまま「人生」に置き換えられるたとも少なくありません。前に進むと、素晴らしい出来事もあるし、トラブルもあるでしょう。平坦で走りやすい道もあれば、山あり谷ありの道も二道もあります。

またひとつの道を選んだら、同時にもうひとつの道を進むという選択はできないという点も人生と道はよく似ています。

それでも「急がば回れ」。こころやからだが疲れたら、無理せずちよっと立ち止まってひと休み、どうしても目的が霧で見えない場合は違う道に変更し、迂回することもできます。

今は道も人生も困った時、周りを見回せば必要な「こと」や「もの」が揃っている時代。ドライブ中の休憩にはアミューズメント施設で遊び、滋味溢れる食事を楽しみ、信念や、矜持を心に抱きながらも、ゆったりと歩んでいく——まだ見ぬ先どんな道が待っているようとも、ゆとりを持って進んでいきたいものです。



上空から見た開通時の名神高速道路・大津SA付近 この後、高速道路網は急速に張り巡らされ、日本経済も発展していった

暮らしと経済を支える大動脈 高速道路の事始めと未来



1963年7月の名神高速道路開通式(京都南IC付近)の様子 完成の喜びが伝わってくる



開通当時の名神高速道路・京都南IC—京都東IC間(山科付近) 高速道路を走るために北海道や九州からマイカーで来る人もいたという

日本国内に張り巡らされた
高速道路の総延長は約9300キロ
ただ、その歴史は意外と短く
国内最初の高速道路が開通したのは1963年
最初の開通区間は名神高速道路の
栗東IC(滋賀県)—尼崎IC(兵庫県)
その区間を含む関西の高速道路を訪ねてみた



日本は道路後進国だった

日本で初めての高速道路が開通したのは1963年7月、名神高速道路の栗東IC(滋賀県)—尼崎IC(兵庫県)間の71.1キロだった。それから61年、高速道路の総延長は約9300キロ(道路統計年報2022)となっている。今こそ、日本の高速道路網は全国に張り巡らされ、国内の物流を支えているが、1960年代まで日本の道は未舗装路が多く、欧米諸国から大きく遅れをとっていた。

名神高速道路の建設に先立ち、政府が招いた世界銀行のワトキンス調査団は1956年、その調査結果に「日本の道路は信じがたいほど悪い。工業国にして、これほど完全にその道路網を無視してきた国はほかにない」と記している。

日本が道路後進国となったのは、明治期以降、政府が鉄道敷設を優先し、財政面などの理由で道路整備を後回しにしたことが背景にある。また、江戸時代、江戸と各地を結ぶ街道が整備され、人々の往来が盛んになったが、その手段は徒歩であり、欧米のように馬車が導入されなかったことで道路舗装が遅れた。ワトキンス調査団の調査後、高速自動車国道法が制定さ

れ、冒頭の名神高速道路開通へとつながっていく。そして1965年に名神高速道路が全通、1969年に東名高速道路が全通、1982年に中央自動車道が全通、1983年に中国自動車道が全通し、日本の縦貫道がほぼ整備された。

この高速道路網の整備と歩調を合わせるように経済は急成長し、生活も豊かになった。経済活動に貨物輸送は欠くことができず、その輸送を支える高速道路が重要な社会インフラであることを示している。

デジタル時代への対応

現在、高速道路に求められる役割はますます広がっている。産地から農産物や水産物を全国に届けたり、地域経済の促進や雇用につながる工業団地の誘致を促したり、人々の観光や帰省の際の「大動脈」としての役割のほか、気候変動で激甚化する自然災害や地震などに際しては、「命の道」として救急搬送や各地からの支援路・迂回路として役割を果たす。

さらに、近年の先進デジタル技術の急速な進歩に応じた変化も求められている。

西日本エリアの高速道路を運営する「西日本高速道路株式会社(NEXCO西日本)」は今後、自動運



西日本高速道路株式会社 (NEXCO西日本) 関西支社
総務企画部広報課 課長代理

富樫 ゆり香さん(右)

NEXCO西日本ではもともと建設・技術系の業務に長年携わり、現在は広報課に勤務。高速道路が完成し、地域の方に「これから便利になる」と喜んでもらった時や、災害時、自衛隊の緊急車両が支援物資を運んでいる場に立ち会った時などは特にやりがいや使命感を抱いたという。

西日本高速道路株式会社 (NEXCO西日本) 関西支社
総務企画部広報課

小北 有希さん(左)

入社1年目。広報課所属で、実際の利用者との接点はまだ少ないが、生活の基盤となる物流を支えていることにやりがいを感じている。阪和自動車道4車線化の着工式で、地元の方から「地域の活性化につながるのだから楽しみにしています」と声を掛けてもらえたことがうれしかったと話す。



未来に伸びていく新名神高速道路

省力化や
自動運転
未来にも
対応していく

転な「CASE」と呼ばれるCon-nected (コネクテッド)・Autonomous (自動化)・Shared & Service (シェアリング&サービス)・Electric (電動化) の進展に合わせた機能拡充を計画している。

一例を挙げれば、先頭のトラック車両ドライバーだけで後続車両と一緒に追従走行させる「後続車無人隊列走行システム」だ。現在、新名神高速道路では安全で円滑な

走行空間の確保を目的に6車線化を進めているが、将来的にはこの走行システムの実現も見据えている。ほかにも、よりきめ細やかな交通状況の提供の整備など、自動運転の実用化を視野にさまざまな取り組みを進めている。

また、今後の電気自動車の普及促進を見据え、高速道路のSA・PAへの充電設備の整備も進めている。



名神高速道路開通当時の大津SA(滋賀県)
1963年7月に開業した日本で初めてのSAだ

人々の努力の結晶
このパトンを未来へ

NEXCO西日本関西支社・広報課 課長代理の富樫ゆり香さんは「時代に合わせた対応ということでは、脱炭素社会の実現に向け、料金所やSA・PA、遮音壁への太陽光パネル設置、照明のLED化などもあります」と話す。

また一方で、開通から61年が経つことでの老朽化対策、リニューアルプロジェクトも進んでいるという。

「レインマーク一つにしても、消えないようにしっかりと維持管理することが必要になります。自動運転化が進めば今まで以上に重要な情報になります」と教えてくれた。ほかにもSA・PAでは地域と連携したイベントの開催や快適な

トイレの設置、ドライバーの疲労回復のためのシャワーステーション設置を進めている。

NEXCO西日本に入社して1年目の同広報課・小北有希さんは「私は実家が大阪府にあり、学生の頃は家族で近くの宝塚北SAに行った時は驚きました。宝塚歌劇をベースにした「宝塚モダン造り」で、ほかにはないSAで感激したのを覚えています」と話してくれた。

NEXCO西日本へ就職したのも、利用者から「押し」にしてもらえりようなSA・PA事業開発に携わりたいという思いがあったからだろう。

ただ、実際に入社し、災害や事故による通行止め対応を経験することで、「24時間365日当たり前使える高速道路」を維持するために、たくさんの方が尽力していることを知り、意識が変わってきたという。

「今は、高速道路の安全・安心を守る保全事業にも携わりたいと考えています」と教えてくれた。

富樫さんは「社員には使命感を持った者が多いです。高速道路は建設から始まり運用・管理まで、数え切れない人々の努力の結晶で成り立っています。これからも未来へこのパトンをつないでいきます」と話してくれた。

ロジスティックケミカル株式会社 第一事業本部 西日本営業部 関西物流センター
化学品などの危険物を取り扱う若手も多く一体感のある職場

化学品・危険物関係をメインに、一般貨物も含めた物流を業務とするロジスティックケミカル株式会社関西物流センターはJR尼崎駅(兵庫県尼崎市)から徒歩10分弱の工場や商業施設、団地などが混在した場所にある。

「従業員のほとんどは電車での通勤者で、近隣からの自転車通勤者も多いです。これだけ駅から近い物流センターは珍しいと思いま



上/インキが入ったトートタンク。新聞社へ納入し印刷用に使われる。トートタンクはまた回収され、何度もリユースされる。右/ドラムクリッパーを装着したフォークリフトでドラム缶を運ぶ

す」とセンター長の酒井 敬一さんは話す。また名神高速・尼崎ICが近いほか、阪神高速も近くにあり、顧客へのアクセス・配送にも利便性が高い。

主要顧客は印刷インキや有機顔料などで世界トップシェアを誇る化学メーカーで、その化学品原料や印刷関連のインキなどの保管・輸配送を行っている。危険物乙種第4類を扱うので、納品先によってはドライバーも同類の危険物取扱者の資格が必要になる。消防法により保管できる数量にも上限があるのが危険物取り扱いの特長だ。

職場は若手が多く活躍しており、20~30代の従業員が10名ほどいる。その上の年代は50代がメインになるが、年齢は関係なく、退社後に一緒に飲みに行くこともよくある。近くにはいい居酒屋が多いそうだ。「(飲み会の中では)なんでも話せて楽しいですよ」と言うのは2020年入社の森田 千尋さんだ。

そんな一体感のある関西物流センターだが、周辺への安全対策などの理由で移転が決まっている。一般貨物のセンターは大阪市、危険物のセンターは京都府亀岡市と分かれるが、また新たなスタートが待っている。



DATA	
住所	兵庫県尼崎市潮江5-1-11
電話	06-6482-1560
従業員数	40名
車両台数(入出荷台数)	約80台/1日

左からセンター長の酒井 敬一さん・構内係長の吉本 健司さん・配送係の丸山 太一さん・業務係の森田 千尋さん

参考資料:「高速道路と自動車」第56巻第7号(2013年7月)「知れば知るほどおもしろい 日本の道路がわかる事典」(著:浅井 建爾 日本実業出版社刊)「道路の日本史」(著:武部 健一 中公新書)

Sightseeing Spot in Osaka



万博記念公園

- ④大阪府吹田市千里万博公園
- ⑤9:30~17:00
- (入園時間は閉園の30分前まで)
- ⑥自然文化園・日本庭園共通入園券
- 一般大人260円、小・中学生80円
- ※太陽の塔の内部見学は事前予約制
- (当日、空気があれば当日券も販売)
- 別途料金が必要
- ⑦水曜(水曜が祝日の場合は直後の平日)
- ※4月1日~GWまで・10月・11月は無休



大阪方面に向かい、吹田ICで降りれば万博記念公園はすぐそばだ。1970年、アジアで初めて

開かれた万国博覧会跡地が公園となっている。テーマ館の一部として建てられた「太陽の塔」は今も威容を保ち、内部の観覧が可能だ(事前予約制)。

宝塚北SAで「宝塚」気分を

また、新名神高速道路の宝塚北SAも目的の地となるSAの一つ。2018年に開業し、西日本最大の店舗棟面積、最大級の駐車台数を誇る「宝塚モダン」をコンセプトにした建物で、宝塚歌劇グッズの販売や、宝塚ゆかりの漫画家・手塚治虫が描いたキャラクター「火の鳥」「鉄腕アトム」のトビアリー(庭木を彫刻的に仕立てたもの)が設置されている。

宝塚市中心部「花のみち」周辺の南欧風景観をイメージした「宝塚モダン」をコンセプトに建てられている新名神高速道路の宝塚北SA。宝塚歌劇グッズや手塚治虫グッズの買い物なども楽しめるが、もう一つの見どころは「トイレ」。女性用トイレはシャンデリアがあしらわれた優雅な空間になっており、パウダールームやドレッシングルームもある。

宝塚モダンな宝塚北SA



上/「宝塚モダン」な建物
下右/漫画界の巨匠・手塚治虫は宝塚市出身。人気作品のキャラクター「リボンの騎士・サファイア」の等身大フィギュアも展示されている
下中/見どころでもある「トイレ」の入口 下左2点/ここでしか会えない「鉄腕アトム」のトビアリー(左)と播州牛を使用した名物お宝っかけ丼(右)

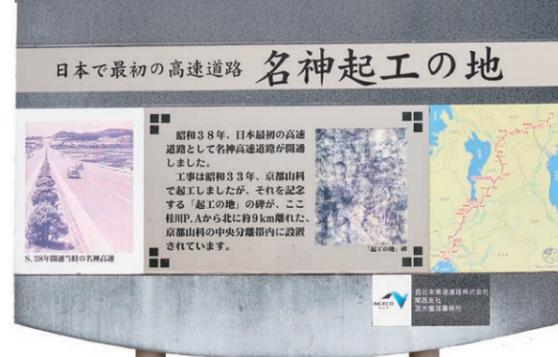


高速道路の歴史を感じながらドライブを楽しむ!

日本で最初の高速道路が開通した栗東IC〜尼崎IC間。この区間を含む滋賀県から兵庫県の間を走る道路を走ってみると、その歴史に触れられる見どころが数多くある。まずは大津SA。1963年7月の高速道路開通とともに開業した日本初のSAだ。当時は食堂・給油所・自動車修理所が設けられていた。この当時は高速走行でオーバーヒートするような自動車故障もあり、SAに修理所が設置されていたのだ。食堂にはコーヒー(60円)、カレーライス(130円)、ビーフシチュー(450円)などのメニューがあった。

日本初のSA 大津SA

大津SAから琵琶湖を望んだ光景。比叡山や大津市街も一望できる大津SAは開業から何度かリニューアルが重ねられている。現在は「恋人の聖地」認定も受け、上り線にはハート型モニュメント「結You+I」がある。下り線の「パヴァリエびわ湖大津」では西日本各地の銘品を購入することができる。



参考資料:「東名・名神高速道路の不思議と謎」(著:山形 みらい 実業の日本社刊)



湖東三山の一つ、滋賀県犬上郡甲良町にある西明寺の参道付近。奥へ進んだ本堂と三重塔は国宝に指定されている。参道(左下写真)の下には名神高速道路(右下写真)が走っている。日本道路公団(当時)はこの景観を損なわないよう道路設計を行った。

第4回 「わだち」は漢字で書くと「和達」とあてています
この「達」にちなんで各分野の達人を紹介していきます

「感謝と集中」を忘れず プロゴルフの世界を進んでいく

プロゴルファー
吉本こころねさん

北海道札幌市の高校を卒業後、女子プロゴルフのテストに「発合格し、プロゴルフファーとなった吉本こころねさん。ゴルフは小学3年生の時から習い始めた。」「365日のうち、360日は練習をしていた」という中学や高校時代を経て、今は注目の若手選手の一人となっている。これまで情熱が冷めたことがないというゴルフの魅力や子どもの頃からの歩みを聞いてみた。



ロジスティードグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

SDGs
エコレシピ

vol. 4

今回の余りもの食材は…
賞味期限間近の
バナナ・
牛乳・卵

簡単ミルクフラン

牛乳や玉子の賞味期限が近いことに気がついて焦ることがありますよね？
そんな時にこの簡単デザート「フラン」を知っていると重宝します
なんと、牛乳・玉子・小麦粉・砂糖を混ぜて電子レンジでチンするだけ
バナナのほか、お好みの果物やトッピングでアレンジも楽しめます

フランというのはフランス語で、溶いた玉子に牛乳と砂糖を混ぜた液状のものを器などに入れて蒸したものを指します。

同じ材料でできるプリンも簡単に作れるのですが、冷蔵庫に入れて冷やさなければいけませんし、カラメルソースも作るとなるともう少し手間がかかります。

今回紹介するミルクフランは、



小麦粉を使わないとプリンのようなつるんとした仕上がりになるが、小麦粉を加えると、カスタードクリームとスフレの間くらいの食感に。できたてでも、冷やしてもおいしく食べられる

小麦粉を加えているので、スフレのようにふわっとした仕上がりで、できたてを食べても美味。思い立った時に作ってすぐに食べられるのもメリットです。

簡単ですが、小麦粉がダマにならないよう、泡立て器でしっかりと攪拌して滑らかな液体にすることがポイント。カスタード味なので、合わせる果物はバナナだけでなく、イチゴ・オレンジ・ブルーベリーなどなんでも合います。缶詰を使っても構いません。また、牛乳の代わりに豆乳やアーモンドミルク、コーヒー牛乳を利用するのもいいでしょう。アイスクリームをのせたり、ナッツやチョコドレートをトッピングしたりと余っている食材を使ってアレンジもいろいろ楽しんでください。

作り方

- ① ボウルに玉子を割り入れ、砂糖、小麦粉を加えてダマにならないよう泡立て器でしっかり混ぜる
- ② 牛乳を少しずつ加えながらさらに混ぜて滑らかにする
- ③ 耐熱の皿に1cm幅の輪切りにしたバナナを並べ、上から②を流し入れる
- ④ 500~600Wの電子レンジで4分前後加熱する。途中で皿の向きを変えると均一に仕上がる
- ⑤ 仕上げに茶漉しなどを使って粉糖をふりかける

材料 (2人分)

- 牛乳 150ml (豆乳、アーモンドミルク、コーヒー牛乳でも良いが、コーヒー牛乳の場合、砂糖の量を少なめに調整する)
- 玉子 1個
- 砂糖 大さじ1.5
- 小麦粉 大さじ1.5
- バナナ 1本
- 粉糖 適量 (なくても良い)



シーズン中は札幌市にある実家を空けることが多くなり、飼っている犬と猫に会えなくなるのが寂しいという。オフの時にかわいがったり、地元の友人と食事に行くことが楽しみだ

幼稚園児の時に抱いた 女子プロ選手への憧れ

若手が多く活躍している日本女子プロゴルフで今、注目されている選手の一人が吉本ここねさんだ。2023年6月に開催されたJLPGAステップ・アップ・ツアー2023シーズン第9戦「ルートインカップ上田丸子グランヴィリオレディース」ではブレイクオフの接戦を制して初優勝を果たした。

吉本さんとゴルフとの出会いは幼稚園児の時。父親が趣味でゴルフをしていたこともあり、地元・北海道で行われていた女子プロゴルフの試合を家族で観に行った。

「その時に見た女子プロの選手がかっこよくて、私もそんなふうになりたいって思ったんです」と吉本さんは振り返る。

その後、小学3年生の時から自宅近くのスポーツクラブのゴルフレッスンを週に1回受けるようになった。

「それが楽しくて仕方なく、もっと練習がしたいと親に頼み、小学4年生からはゴルフ練習場でジュニア向けレッスンをしてくれる先生のところへ通えるようになっていました。車で10分くらいのところであって、親に送迎をしてもらいながら本当に毎日通っていました」

北海道で2校しかない ゴルフ部のある高校へ

中学生になってからも「1年365日のうち、360日は練習をしていました」という吉本さんは、札幌市にある札幌光星高校へ進学道内で2校しかないゴルフ部がある高校の1校だった。推薦入試の資格として必要な英検3級も取得した。

「札幌光星高校は進学校でもあったので、中学の時から勉強もがんばりました。ゴルフへの情熱が冷めたことはなかったですし、プロをめざし続けていましたが、プロの世界の厳しさも感じ取っていたので、もし上手くいかなかった時に役立つだろうと勉強もきちんとしておこうと思ったんです。高校

した」

まずは上手くゴルフクラブがボールに当たることが楽しく、次はショートコースに出させてもらうようになって日に日にスコアが良くなっていくことがうれしく、どんだんのめり込んでいったという。小学校高学年になる頃にはゴルフ大会にも出場し、北海道ジュニアゴルフ選手権優勝、全国小学生ゴルフトーナメント8位などの成績を収めるようになった。



では英検準2級に合格しました」と吉本さん。

高校ではもちろんゴルフ部に所属。部活の時間は、顧問の先生が運転してくれる「部バス」と呼ばれるバスに乗ってゴルフ練習場やコースに行き、ラウンドを回ったりした。北海道内や全国のさまざまな大会で好成績を残し、高校3年生の時にはJGA（日本ゴルフ協会）ナショナルチーム入りを果たした。

そんな高校時代の思い出は「修学旅行」。5日間ほどの日程で、長崎や福岡など九州を巡ったが「実は内緒で短めのゴルフクラブを持っていきました。5日間、ゴルフの練習ができないことが不安だったんです。夜、みんなに隠れて素振りをしたりしていました」と笑いながら教えてくれた。

プロの厳しさとは

高校を卒業した2018年、日本女子プロゴルフ協会（JLPGA）の最終プロテストで一発合格し、子どもの頃からの夢を叶えてプロとなった。



上／ゴルフのマイボールには「感謝と集中」という文字をスタンプしている。応援・サポートしてくれる人々への感謝を日々忘れない。下／使用頻度が高いというハイブリッド5番のクラブ。体格的にも飛距離が出るタイプではないが、100ヤード以内の精度を上げて、バーディを狙っていくゴルフをめざす。

マイボールに刻んだ言葉 「感謝と集中」

これからの目標はまずはレギュラーツアーでの優勝。その後は、レギュラーツアー出場のシード選手になることをめざす。

「私は飛距離を出せる選手ではありません。難しいところはしっかりとパーセーブし、チャンスは逃さないプレーをめざします。フェアウェイのキープ率は高く、ボギーが少ないことも私の強みです。曲がらないように打てるということ、小さい頃からの積み重ねの成果だと思っています」

応援してくれる人々への感謝も日々忘れない。吉本さんのゴルフボールには「感謝と集中」という言葉がスタンプされている。

「感謝と集中」は高校のゴルフ部のスローガンでした。いい言葉だと思って、いつも忘れないようにマイボールにスタンプしています。応援してくださるみなさん、サポートしてくれるスポンサーの方々からいつも力をいただいています。私も精一杯がんばって恩返ししていこうと思っています。集中力を持ってゴルフに向き合っていきます」と決意を語ってくれた。

よしもと ここね ●2000年、北海道札幌市生まれ。プロゴルファー。小学3年からゴルフを始め、札幌光星高校のゴルフ部時代には北海道ジュニアゴルフ選手権競技、PGAジュニアゴルフ選手権太平洋クラブカップなどで優勝。高校卒業後の2018年、日本女子プロゴルフ協会（JLPGA）の最終プロテストに一発合格し、JLPGA90期生に。2020年の日本女子オープンゴルフ選手権で7位、JLPGAステップ・アップ・ツアー2023シーズン第9戦「ルートインカップ上田丸子グランヴィリオレディース」で優勝など、将来が有望視されている。不二サッシ所属。2023年4月にロジスティードとスポンサー契約締結。

小学生の頃から陸上が好きですか？

そうですね。小学生の時は父と親子マラソンに出場したり、地区のマラソン大会の小学生の部に出たりしていました。成績はまあまあという感じですかね（笑）。陸上クラブ自体が長距離メインのクラブだったので、自然とマラソンなど長距離種目のほうへ進みました。あとは、小さい頃から正月の箱根駅伝をテレビで観ていました。自分もそこで走りたいな、という思いはその頃から持っていました。

好きな食べ物は何ですか？

卵料理なら何でも好きです。甘いものも好きで、チョコレートをよく食べています。スイーツの店に行ったりする余裕はないので、練習の合間にコンビニで買う程度ですが。あと、ラーメンも好きですね。地元近隣の山形市はラーメン消費額日本一なんです。



帝京大学では3年、4年生時に箱根駅伝出場。2年連続で5区の区間賞を獲得しました

入学した頃は周り比べて力がある選手ではありませんでした。でも、ケガをせず、継続的に練習を続けた成果が大学時代の後半で出ました。個人の練習の時にもしっかり考えを持って、距離を踏んでいったことが良かったのだと思います。



「ロジステードに来たのは世界をめざしたいからです」

帝京大学で3年・4年生時に箱根駅伝に出場し、2年連続で区間賞を獲得した細谷 翔馬さん。大学卒業後は天童市役所で公務員をしながら陸上を続けていましたが2023年5月、ロジステード陸上部に入部、陸上に対する思いを聞きました。



陸上を始めたきっかけは？

父が地元（山形県寒河江市）の陸上クラブのコーチをしていたので、そこに小学2年生の時に入りました。スポーツの習い事をするという感じで陸上を始めました。

中学生の時は？

中学校には陸上部がなく、運動部がまとまったようなアスリート部というのがあるって、そこに入部しながら引き続き陸上クラブで練習していました。

高校時代の陸上生活は？

東北高校（宮城県仙台市）に進学して陸上を続けました。寮生活だったので、身の回りのことを自分でしなければいけないので、親のありがたみを知りましたね。高校2年の夏頃までは上手く走れ

なくて、中学生の頃のタイムよりも遅かったりしました。環境の変化が影響したのだと思いますが、振り返ってみればいい経験をしました。



細



谷

翔

馬

大学時代の思い出は？

3年、4年生の時にコロナ禍がありました。寮生活なので、一人でも感染者が出ると感染が拡大する可能性があるのですが、外出が基本的にできなくなりました。特に公共交通機関を使わないことは徹底していました。飲食物のテイクアウトはぎりぎりOKとなっていたので、寮の食事がない週末、近所の店で「すた丼（豚バラ肉を載せたボリュームたっぷりな丼）」を買ってきて寮で食べるのが唯一の楽しみでした。

大学卒業後は天童市役所に入職し公務員になりましたね

はい。正直なところ言えば、実業団から声がかからなかったというところもあるのですが、一度地元へ帰り、地元で活躍してみたいという思いもありました。

市役所時代はどのように陸上を？

天童市役所では産業立地室に配属されました。定時勤務の後、個人での練習となったので、やはり大変でした。ただ、山形県には山形県縦断駅伝競走大会という市町村対

抗の駅伝があるのですが、その大会に出場する選手の方と練習する機会もあってがんばれました。箱根駅伝とも違った、地元ならではの一体感もあって楽しかったです。



オフィスワークは？

東京都台東区に本社があるロジスティードオートサービスのオペレーターとして本部業務課で週2回、午前10時から午後2時まで勤務しています。ロジスティードグループ保養所（サン・アンド・サン荘伊豆高原）の利用状況取りまとめなどを担当しています。職場のみならずは陸上のことを聞いてくださったり、実際に応援にきてくださったりして、うれしいです。いつも感謝しています。

ニューイヤー駅伝2024の結果については？

みんな、練習はしっかりできていて、強い気持ちで大会に臨めたのですが、応援をしてくださったみなさんの期待に答えられませんでした。チーム全体で気持ちを切り替え、それぞれが意識を高く持って次に臨もうと話し合いをしています。



しっかり陸上に打ち込める
ありがたい環境です

ロジスティード陸上部に入部したきっかけと感想は？

自分の中で、世界など上の大会をめざしたいという気持ちが大きくなって、実業団でしっかり走りたいと思うようになりました。高校時代、陸上競技部の顧問の先生の伝手で別府監督と少し面識があったのですが、あらためて紹介をいただいたので、コンタクトをとり、思いを伝えたところ、ロジスティード

陸上部に迎えていただけることになりました。

入部したら、レベルの高い選手ばかりで刺激を受けています。みなさん、しっかり考えを持って走っているし、仲良くもしてくれています。会社のみなさんも応援してくださるので、本当にありがたい環境です。

陸上以外のスポーツは？

サッカー観戦はします。昔はそれほど興味がなかったのですが、今は「モンテディオ山形」を応援しています。



趣味は？

散歩です。（大学時代の）コロナ禍の時、外出自粛で何もできなくなり散歩ばかりしていました。それからよく歩くようになりました。今は松戸市にあるクラブハウスで暮らしていますが、都心にも出やすいので、特に目的も決めずに歩いて、どんな店があるのかとか、そんなことを見たりしながら歩いています。

これからの目標は？

マラソンで世界をめざしていきます。大学4年生の時、東京マラソンで記録した2時間9分18秒（当時の日本学生歴代3位）を上回る成績をまだ出せていません。2024年2月末にある大阪マラソンで2時間9分を切るのが目標です。（インタビューは1月下旬に実施）駅伝でも主力としてチームに貢献できるようにがんばります。

※2月25日開催大阪マラソン2024出場19位2時間9分5秒
（チーム最善記録・自己新記録）



ほそや しょうま ●2000年生まれ、山形県寒河江市出身。東北高校、帝京大学卒業。帝京大学駅伝競走部では3年、4年生時に箱根駅伝に出場し、2年連続で5区区間賞を獲得。同4年生時の3月に出場した東京マラソンで日本学生歴代3位（当時）の2時間9分18秒を記録。大学卒業後の2022年、天童市役所に入職。2023年5月、ロジスティードに入社し陸上部に所属する。

自走式多軸トレーラの共同運営に関する業務提携 ～社会インフラ整備で協力体制を構築～

(株)宇徳とロジスティード(株)は、自走式多軸トレーラを利用した輸送事業において、共同運営によりオペレーション効率の向上を図る業務提携契約を締結し、1月より運用開始しました。



ロジスティードの「マルチキャリア」



マレーシア(セランゴール州)に ITの現地法人を設立

ロジスティードソリューションズ(株)は、マレーシアのセランゴール州に「LOGISTEED Solutions Asia-Pacific Sdn. Bhd.」を設立し、1月より営業開始しました。マレーシアを中心にアジア太平洋地域のハブ拠点としてロジスティックITソリューションにフォーカスした関連事業を展開します。



CDP気候変動レポート4年連続 「A-(Aマイナス)」評価獲得

ロジスティード(株)は国際環境非営利団体CDPより、「気候変動レポート2023」にてその取り組みや情報開示が優れた企業として、リーダーシップレベルである「A-(Aマイナス)」の評価を4年連続で受けました。



トップイーストリーグAグループ昇格

ロジスティード東日本(株)の選手が9名所属する茨城県日立市を拠点に活動しているラグビーチーム「日立Sun Nexus(サンネクサス)茨城」は2024シーズンからトップイーストリーグAグループへ昇格することが決定しました。引き続き温かい応援をよろしくお願いします。



ロジスティード東日本(株)の選手たち

「QRコード」を読み取ると、ロジスティードのWebサイトから詳細がご覧いただけます。「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

編集後記

散歩はあてもなく歩くタイプで、道に迷うこともしばしば。結局遠回りになってしまうこともあります。「道はつながっている」というどこかお気楽な気持ちでいることで、新しい発見があったりします。いろいろな道を歩くことで視野が広がるように、日々の生活も柔軟な思考で物事を見るように心掛けたいと思います。(金田)

LNG輸送初出荷記念式典挙行

ロジスティード北日本(株)のLNG(液化天然ガス)輸送の初出荷日となる2023年11月30日に、北海道LNG(株)の石狩LNG基地内の石狩出荷センターにて記念式典が開催されました。



LNG輸送車

SSCV®-Safetyの「予測する」システムで特許取得

ロジスティード(株)は、安全運行管理ソリューション「SSCV®-Safety」の機能のうち、ドライバーの事故リスクを予測するシステムについて、特許を取得しました。



●特許の概要

発明名称	運転の危険リスクを予測するシステム
特許番号	特許第7334057号
登録日	令和5年(2023年)8月18日
特許権者	ロジスティード株式会社

バンテックとバンテックイーストが 太陽光発電設備完工式を挙 行 地元の上三川町と災害時防災協定を締結

(株)バンテック・(株)バンテックイーストは、2023年12月13日にバンテックイースト栃木営業所で太陽光発電設備の完工式を挙行し、あわせて栃木県河内郡上三川町との災害時防災協定を締結しました。



「2024さっぽろ雪まつり」出展

ロジスティード(株)は2月4日～11日に北海道札幌市で開催された「2024さっぽろ雪まつり」で大通会場に小雪像と特設ブースを展示しました。



ライトアップされた雪像



全国フォークリフト運転競技大会「一般の部」で優勝! —中野 裕貴さんに喜びの声を聞きました—

2023年9月30日・10月1日に愛知県で開催された「第38回全国フォークリフト運転競技大会」(主催:陸上貨物運送事業労働災害防止協会)の「一般の部」で優勝し、厚生労働大臣賞を受賞したロジスティード西日本(株)の中野 裕貴さん(山口県)に大会を振り返っていただき、喜びの声を聞きました。

もともと「興味本位で」大会への参加を決めた中野さんは、前回大会(2022年)も全国大会に出場していました。その時は学科競技が伸びずに結果は5位に。「それまで運転がうまければいけるだろうと、学科の準備は本気でやれていませんでした。今回は学科の自主勉強にも取り組み、大会に臨みました」と中野さん。その結果、学科競技では300点満点で288点の成績を収め、優勝の決め手となりました。

そのほか、点検競技は100点満点で100点、運転競技は600点満点で580点の成績でした。「運転競技のことは緊張していたのかあまり記憶がありません。高得点が取れたのは、練習の積み重ねで体で覚えていたからだと思います。(優勝者として)最後に名前が



ロジスティード西日本(株)笠戸第一営業所の中野さん 大会で真剣な表情で運転競技に臨む

全国トラックドライバー・コンテスト「4トン部門」に初出場し2位入賞! —横井 宏彰さんの次の目標は?—

2023年10月21日・22日に茨城県で開催された「第55回全国トラックドライバー・コンテスト」(主催:公益社団法人全日本トラック協会)の「4トン部門」に出場し、初出場で2位入賞を果たしたロジスティード西日本(株)の横井 宏彰さん(京都府)に大会を振り返っていただき、今後の目標などを聞きました。

ロジスティード西日本(株)に入社し、まもなく5年となる横井さんは現在27歳です。以前は空調設備の会社に勤めていたが、空調機器を運んでくるトラックドライバーを見て、憧れを抱いたそうです。「それで自分も運送業界をめざそうと思い、免許を取りに行きました。その後、転職先を探している時にロジスティードがトラックドライバー・コンテストに力を入れていて、優勝も含め上位入賞の成績を収めている方が多いと知り、入社を志望しました」と話します。

そして、昨年の大会に初めて出場。まずは京都府大会で優勝し、全国大会へ進みました。その全国大会での成績は学科・実科競技計1000点満点で972点。優勝者は979点で、7点差で優勝を逃しました。

「満点までは28点ですが、そのうちの15点が学科で落とした点数です。3



ロジスティード西日本(株)大山崎AE営業所の横井さん 普段は4トン以外のトラックも運転する

